＜利用者からの声＞

図書館利用の達人を目指して

藤 岡 保 範*

杏林大学医学部病理学教室

北海道大学医学部附属病院病理部から1年半前に杏林大学医学部にやって来て以来、毎日日課のように医学部図書館へ足を運んでいます。北海道大学時代に病院の建物の中を5分程歩いて図書館に通っていたことを思うと、図書館が研究棟と離れていていったん外に出るとは言えずぐ目の前にあり、不便なことはありません（雨の日以外は）。そんな中で声を掛けられて断われないままに原稿の依頼を引き受けてしまいましたが、21世紀に向けての医学図書館についての特別な考えを持っている訳ではありません。そこで、これから先も図書館を利用する立場から医学図書館に関する感想を述べることにします。

日課のように図書館に通うのは、1) 新着の雑誌に目を通すことと、2) 文献検索や図書での調べもの、3) E-mailのやり取りをする（研究室にLANがないため）のが大きな目的です。今日の医学情報の増加は一昔二昔前とは隔世の感があり、医学図書館は日常的に医学情報を入手するのに最も重要な場となっています。また、人体病理学を仕事の対象としている関係で基礎医学的な情報から臨床医学までの幅の広い情報が常に必要であり、以前からよく図書館には通っていました。自分の仕事の範囲が広がるにつれて、時間の許す限り

図書館に通うのが日課ようになってしまいました。

関連分野の新着雑誌に目を通すのはもちろん新しい情報を得るためで、日常の研究や診断業務に不可欠のことですし、文献検索も日常の研究や診断業務にとって欠かせないところです。文献検索は5, 6年前までは図書館で主に Index Medicus や医学中央雑誌を用いて行っていました。その後、図書館でCD-ROMによる文献検索ができるようになり、さらに研究室にLANが引かれてからは自分の部屋で文献検索が可能となりました。図書館が閉館した後も休館日でも検索が可能となり随分と便利になりました。ある程度必要と思われる文献をチェックしておき、時間のあるときに図書館で実際の文献に当たるといったことを行っていました。今のところ研究室にLANが引かれていないので図書館のコンピュータで文献検索をしていますが、ごく近い将来、研究室にLANが引かれて自分の部屋での文献検索が可能になるものと期待しています。一方、Index Medicusでの検索をほとんど行わなくなったことで、Index Medicusでの検索で得られるメリットが失われつつあるようにも感じています。Index Medicusを引いていて、時々あちこち渡り歩いていて思わぬ発見をした経験は誰にでもあるのではないのでしょうか。コンピュータを用いた検索は便利で早く、確実です（適当なキーワードの組み合わせを用い

*Yasunori FUJIOKA : 〒181-8611 三鷹市新川6-20-2.

yfujioka@kyorin-u.ac.jp

(1999年9月20日 受理)

なければ回り道になることもあります)が、いわゆる遊びがありません。その時に必要とする事項の文献以外に、普段から抱いている疑問や興味のある事項に関連する文献に偶然出くわすのは遊びのある作業から生まれるのではないのでしょうか。斯く言う私も最近は全く Index Medicus のお世話にならなくなっていますので偶然の発見の喜びをしばらく忘れています。

まだ残された課題はあるようですが、近い将来は電子メディアの拡大とともに雑誌の形態も変わっていくものと思われます(電子ジャーナル化)。場所を取らないといったメリットもありますし、文献検索や文献引用がより便利になるようです。現在既に CD-ROM で雑誌を供給するシステムが行われています(今のところ実際に利用したことありません)。しかしながら、病理学の分野では文献中の写真が重要なことが多く、まだ写真の質に問題があり、電子化されたとしてもしばらくは印刷された従来の雑誌と二本立てととならざるを得ないと思われます。病理学の専門分野での電子ブックがありますが、まだ写真の質に問題があるようです。

現在既にどこの図書館でも大きな問題となっていることと思いますが、増えつづける雑誌の数と

値段の高騰および予算制限による購読雑誌数の制限の問題があります。また、これは蔵書保存スペースの確保とも関連した問題です。各医学の分野で何がコアとなる雑誌かを決めるのは大変難しいところですが、コアとなる雑誌はぜひ確保していただかなければならないでしょうし、また、過去 15 年位の雑誌は近くに保存しておいてすぐに利用できる状態にしておく必要があります。いくつかの図書館がグループを形成してコア雑誌以外はそれぞれが特徴ある雑誌を購入、保管し、その雑誌を相互に利用できるシステムがあると良いのではないのでしょうか。また、それらの新刊雑誌の目次や要旨は LAN を通して見ることができると便利と思います(ある部分は既に実施されているのかもしれない)。

これからの医学図書館は雑誌や書籍などの図書のほかに電子メディアを通した医学情報を扱う比重が増々大きくなると思われます。21 世紀まであと 1 年と少しになりましたが、利用者也提供される医学情報をいかにして有効に活用できるかを学んでいかなければならない時代になり、これからは図書館利用の達人を目指してより一層お世話になります。利用しやすい図書館作りをお願いいたします。